

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail: XLZ02133@nifty.ne.jp
URL: <http://www.ksvk.jp/>
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◇情報支援を通した障害者社会参加支援の推進 2~3P

北九州市障害福祉ボランティア協会

常務理事 竹田 英樹

◆「あったらイね!こんなトコ」情報募集!! 4P

◇「第15回 国際車いすバスケットボール大会」 4P

に参加して

一木 亜里紗

◆ボランティア物語 98

『ボランティア協会』

宮崎 浩

5P **好評
連載中!!**

◇福祉のまちづくり

ネットワークプロジェクト リレーレポート⑧

5P

九州工業大学 大学院生命体工学研究科
人間知能システム工学専攻

教授 和田 親宗

◆MYフレンド

6P

西部障害者福祉会館職員

岩永 美佐子

◇「障害者あるある川柳」 応募作品募集中! 7P

◆協会カレンダー 8P

座標軸

「ながらスマホは危険です!!」

歩道を歩いていましたら、前方を行く車いす使用者が目にとまりました。しばらくして前からスマホを見ながら歩いている一人の男性が近づいて来ました。スマホに気を取られていたのか突然、目の前の車いすに気がつくと思わずに咄嗟に立ち止まったものの「すみませんでした」と言わず「どこを見て動いているのか」と云わんばかりに睨みつけ(ガン見?)通り過ぎて行きました。

車いす使用者も歩行者です。避けようとして避けられるものではなく向こうから近づいて来たのですから、このような状況で接触して怪我をさせたとしたらどうなるのでしょうか。詳しくはわかりませんが車いす側に賠償請求されることがあると聞いたことがあります。

マナーよりモラルを疑いたくなります。歩いている時には歩くことに集中して欲しいものです。横断歩道を渡ろうとしている人の中にもスマホを見ながらの人がいます。事故に遭ったらそのような場合でも被害者なのでしょうか?

(K.O)

情報支援を通じた障害者社会参加支援の推進

北九州市障害福祉ボランティア協会 常務理事 竹田 英樹

北九州市障害福祉ボランティア協会(以下「ボラ協」)

は、平成24年度に今後10年間の取り組みとして「中長期計画2012～2022」を策定しました。

平成29年度に中間年として、過去5年間で出来たこと出来なかったことを検証するため、中長期計画の見直し検討会を理事・常任委員で構成し、時代とともに変化していく事業の取り組みや運営の課題について3つの新たな取り組みを追加しました。

新たな取り組み

1. 情報支援を通じた障害者社会参加支援の推進

情報機器の多様化に伴う障害者社会参加支援を推進する。

2. 時代に沿った運営体制の構築

会員の関わり方の変化に伴う、今後の運営体制を検討する。

3. 安定財源の獲得

会員及び寄付金の減少や補助金削減に伴う、今後の財源確保を検討する。

この3つの新たな取り組みの一つである「情報支援を通じた障害者社会参加支援の推進」を今年度は、障害者IT支援拡大検討会を設置し、2つの事業に取り組み、いま一つ目は、現在の支援状況を見直すためのパソコンを含む障害者IT支援の状況把握をするため、全国を対象としたアンケートの実施です。

二つ目は、進化していく機器に今後どのように対応し、

障害のある人の社会参加を進めていくのかを検討するため関係者が一堂に会しての「今後の障害者IT支援を考える」シンポジウムの開催です。

IT支援については、次のように国にも障害者総合支援法の中で取り組みを進めています。

国は平成25年に施行された障害者総合支援法の地域生活支援事業の中で、法律の第77条及び78条に基づき「地域生活支援事業実施要綱」を定めました。

この実施要綱の中に「障害者IT総合推進事業」があります。内容は次のとおりです。

障害者IT総合推進事業

1. 目的

障害者等の情報通信技術の利用機会や活用能力の格差是正を図るため、障害者IT

サポートセンターを拠点とし、各IT関連事業を総合的かつ一体的に実施し、ITを活用しての障害者等の社会参加を二層促進することを目的とする。

2. 事業内容

① 障害者ITサポートセンター運営事業

障害者等の情報通信技術(IT)の利用機会や活用能力の格差是正を図るための総合的なサービス提供拠点として、障害者ITサポートセンターを設置・運営を行う。



② パソコンボランティア養成・派遣事業

障害者等に対し、パソコン機器等の使用に関する支援を行うパソコンボランティアを養成・派遣する。

ITサポートセンターを中核とした障害者のITサポート事業

また、平成16年に厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 社会参加推進室が「ITサポートセンター」を中核とした障害者のITサポート事業」について支援策を示しています。

● 障害者に係るIT関連の支援策

① 基本的な考え方

・ ITの活用により障害者個々の能力を引き出し、自立と社会参加を支援

・ 障害によるデジタル・デバイド(ITの利用機会や活用能力の格差)の是正

② 地域の障害者に対する物的な支援

・ パソコン周辺機器やソフト等の購入費助成(平成13年から障害者情報バリアフリー化支援事業)

・ 企業、個人等の不要となったパソコン機器を無償譲渡

【平成14年からパソコンリサイクル事業】

③地域の障害者に対する

人的な支援

・パソコンの使用方法を相談できるボランティアの養成・派遣(平成14年から)

【パソコンボランティア養成・派遣事業】

・パソコン利用促進事業(平成16年から)

【ITに関する地域の普及啓発・パソコン教室の開催】

④両方の支援に係る支援

※障害者ITサポートセンター(平成15年から)

各種支援施策を有機的に結び付ける総合的なサービス拠点(都道府県・指定都市単位)

- ・パソコン等の利用相談
- ・パソコン等の展示・体験学習
- ・パソコン教室の開催
- ・パソコンボランティアの活動支援
- ・リサイクルパソコンの斡旋
- ・ITを活用した雇用事例の

情報提供

・ITを活用した在宅就労等の相談

●障害者に係るIT化

取り組みの課題

①「障害者ITサポートセンター」について全都道府県・指定都市での実施を目指す。

②ITサポート人材(支援機器やソフト等の作業環境を含めた総合的な調整を行う人材)の確保

③障害者のパソコン活用による在宅就労支援のために基本的なスキル習得への積極的取り組みを図る

障害者IT支援

全国調査事業

ボラ協は、平成30年度全国の障害者ITサポートセンターを運営している団体、ボランティア養成講座・派遣事業だけを実施している団体126団体にアンケートを実施しました。

アンケートを依頼した段



階で事業を止めている団体や、行政からの委託費などは回答が難しいなどの理由もあり、36%と低い回答率になりました。

回答をいただいた団体で、行政からIT支援の事業を受託している団体が25団体、受託していないが7団体で78%が委託事業として実施しています。

スタッフ体制も、正職・嘱託職員で運営している団体が21団体、パート・ボランティアで運営している団体が11団体で、過半数が職員だけで運営しています。

支援の対象は、全障害対象が13団体、特定の障害だけを対象としている団体が19団体で、中でも視覚障害

を中心とした支援をしている団体が16団体と多く、視覚障害の人にとってIT支援の必要性が高いことがわかりました。

IT支援の派遣をしている団体で、派遣手当を出している団体が18団体、手当を出していない団体が5団体で金額はまちまちですが78%の団体が手当を出しています。

今回の調査で、IT支援ボランティア養成講座を実施している団体は16団体で、実施していない団体が8団体と意外と多いことがわかりました。養成講座を実施していないということは、派遣もしていないので、対応は主に電話やメールでの相談対応でした。

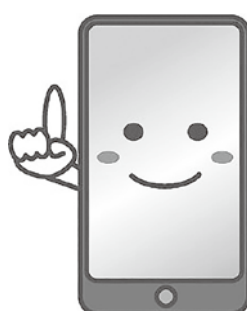
障害者IT支援

シンポジウム

今年度のもう一つの取り組みとして、シンポジウム開催の計画がありました。

今後の取り組みと課題

IT支援拡大検討会委員の意見から市内で障害者IT支援に取り組んでいる団体施設などに集まってもらい、情報共有することから始めようということになりました。



当協会の今後の課題としては、盲ろう者やALS患者(筋萎縮性側索硬化症)などのように重度障害者への支援も増えており、重度障害者への対応とIT機器の開発が進みパソコン以外のスマホ、タブレット、視覚障害者専用の機器などに対応できる支援者を増やしていく必要が感じられます。

あったらイイね! こんなトコ

情報募集!!

みなさんがお住まいの地域で素敵なお店や施設・お気に入りのスポットはありませんか?
このコーナーは、みんなが使いやすいお店やお気に入りのスポット、ホッとできる場所などを
「あったらイイね!こんなトコ」、「行きたいね!こんなトコ」でご紹介いたします♪

ご提供いただいた情報は
ボラ協が直接取材に行きます!!

公益社団法人 北九州市障害福祉ボランティア協会
TEL093-882-6770 FAX093-882-6771
メールXLZ02133@nifty.ne.jp



「第15回 国際車いす

バスケットボール大会」

に参加して

一木 亜里紗

11月16日から18日に開催された「国際車いすバスケットボール大会」で入場管理係のボランティアとして参加させていただきました。

私は、昨年の大会で初めてこのボランティア活動に参加させていただき、その際に、ボランティアとして活動することの楽しさ、私でも大会を支える力になったという自信を得ることが出来ました。今回は、ボランティアの支えを通して大会を盛り立てたいと思い、ボランティア実行委員の1人として大会に臨みました。

今回、実行委員として参加したことで、「やり遂げた」という、一般ボランティアでは得ることが出来なかった達成感、また、他の実行委員の方々が始め多くの方々と関わる事が出来、自分も大会を作り上げる1人なのだという実感を得ることが出来ました。



学校の方も多忙であつたため、実行委員として関わることは正直なところ大変でした。しかし、この大会に最初から最後まで携わることのできたものは大きく、大会を成し遂げたことは私の自信となりました。活動に参加させていただき、本当にありがとうございました。

広告



SKC 会計グループ 税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL. 093-482-5588 / FAX. 093-482-5566
<http://www.sakaikaeiei.co.jp/>

株式会社さかい経営センター 株式会社SKC計算センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州

宮崎浩さんは、当ボランティア協会の理事です。
このコラムは、宮崎さんの体験を通した思いをつづったものです。

ボランティア物語

-98-

ボランティア協会

宮崎 浩

北九州市障害福祉ボランティア協会、通称「ボラ協」。

僕が、ここに勤めていたのは、もう33年前にもなる。

僕が福祉の道に進むきっかけとなった「わたぼうしコンサート」を開催した人たちのところで、よもや働けるとは、何とも言えない深い縁を感じた。

まず、働き始めて最初に驚いたのは、ボラ協の人たちは、障害者ばかりだったこと。しかも「障害があつてもボランティア」と、体験したことがない不思議な世界に、来たような感じがした。

僕が卒業した大学は、福祉系だったこともあり、手話、点字を身に付けていた。重度障害がある同級生の介助をしていた。

また、障害児の家庭教師や精神病院でアルバイトもしていた。

だから、あらゆる障害者と付き合うのには、ある程度、慣れているつもりだった。それだけに、僕がずっと培ってきたボランティア観は、

ここで大きく揺らいでしまった。

健常者であるボランティアが、障害者のために何かをしてあげて、そこにやりがいを求める。そんな健常者と障害者の関係を「：してあげる側」と「：してもらう側」とに分けて考えていたから、ずっと違和感を抱えながら仕事をしていった。

それでも、ボラ協というところは、様々な事業が目白押しで、忙しくて深く考える間もなく、福祉の風土づくりという活動に夢中になっていた。

障害者が暮らしやすい街は、健常者にとっても暮らしやすい街になる。また、ボランティア活動は、市民が参加する活動。たとえ障害があつても一人の市民であるのだから、一緒に活動するのは当然なんだ。

ある時、ふと気づいた「あれっ違和感がなくなってる」

同時に僕の中にあった健常者と障害者を隔てていた「ボランティア境界」が消えていた。

誰もがみんなボランティア。協会の「協」の漢字を見ると、ボランティアの十の力が重なり出会うところ。

これが「ボランティア協会」

福祉のまちづくり ネットワークプロジェクト

(リレーレポート⑧)

コミュニケーションについて思いつくまに

九州工業大学 大学院生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 教授 和田 親宗

先日、東南アジアを訪問する機会がありました。複数の都市を訪問しましたが、いずれも公共交通はあつてないに等しく、また交通信号や横断歩道も数えるほどしかありません。基本的には車やバイク中心の生活スタイルで、歩道もないところが多く、あつても穴が空いていたり、大きな段差があつたりと歩行者を考えているとは思えません。道路を横切る場合には、車やバイクの間を縫って、渡らなければなりません。ただ不思議なことに事故もなく何とか渡ることができます。これは運転手が、横断者のいることを当然と想定しており、歩行者と運転手の間で何かしらのコミュニケーションが取れているためだと思います。最近の日本では、信号のない横断歩道を歩行者が渡るうとうとしても止まろうとしない車

が多いことに比べて、はるかに安全なものではないかとさえ思えます。あいにく、車いす使用者や視覚障害者が単独で移動している場面を見ることはなかったのですが、車で移動しているか、あるいは、あまり外出しない(できない)のかもしれない。後者だとすると、日本のようなインフラ整備は難しいでしょうから、人による効率的な支援方法が必要になるように思います。加えて、日本ではほとんどの地域で、どこから何かしらの情報を得ることはできませんが、海外では、自分から動かない限り情報を得ることはできません。例えて言うなら、情報弱者になっている状態かと思えます。いくらネットが使える環境でも、最後には現地の人から情報を入手する必要があります。私の研究テーマは障害者や高齢者の工学的支援ですが、いくら機械を使つたとしても、最終的には人が人を支援することになるような気がします。ただ、その支援する人とされる人との間のコミュニケーションは重要で、それを円滑にするための、何かの仕掛けやもの作りが今後必要になるような気がします。

広告



医療法人 しょうわ会

医療部門

整形外科を中心とした救急・急性期病院

正和中央病院

TEL (093) 602-1151

運動器・脳血管疾患の回復期リハビリテーション病院

正和なみき病院

TEL (093) 644-0756

介護部門

居宅介護支援事業所 フォレスト ケアマネステーション

通所リハビリテーション ラ・フォンテーヌ

訪問リハビリテーション

ラ・ポルトブルー (地域密着型通所介護・予防給付型通所サービス)

上記施設に関するお問い合わせは「地域連携室」へ TEL (093) 644-0831



―西部障害者福祉会館での担当は―

四月から会館事業を担当しています。障害のある人のニーズや特性に合わせた講座の開催やボランティア養成講座、利用者の皆さんとの交流会などを行っています。またコミュニティ内にある「人づくり」に関する十二施設で構成する「ひとみらいプレイス」という組織と連携した事業も行っています。連携施設である国際交流協会とは毎年、異文化交流講座を開催しており、今年度はベトナムの料理と文化を学びました。また八幡西生涯学習総合センターとは「気ままにセミナー」という近隣の企業の人を対象とした講座を企画しており、過去には「車いす体験」や「ロコモ転倒予防」などの講座を開催しています。また「市民カレッジ」では障害のある人もない人も共に学び、一緒にダンスを創り上げていき、フラッシュモ

ブの発表の場では大変盛り上がりました。

―西部会館独自の講座は―

ボランティア協会と共催で毎年、ボランティア養成講座を開催しています。また、障害のある方を対象とした各種講座を開催しています。講座はいろいろありますが、特に料理やスイーツ、体操は人気があります。その他、講座とは別に

―心がけていることは―

緒になつて何かに取り組み楽しんでもらえたいと思います。また、来年三月には、平野市民センターに出向いて「手話ミニ点字教室」を開催する予定です。地域に出向き、多くの方に視聴覚障害者への正しい理解および簡単なコミュニケーション方法を学んでいただければと思っています。

西部障害者福祉会館職員

岩永 美佐子さん



「情報保障」

が大切だと思っています。会館の講座は、視覚に障害のある方や聴覚に障害のある方など全ての障害のある方を対象とした講座

味を磨く中で色々な人と出会い、仲間づくり、居場所づくりが出来た。先日行われた、お菓子づくりのサークルでは、一般市民の方や小さなお子さん連れ、さまざまな障害のある方が参加され、とても楽しい時間を過ごされていました。来年一月にはカラオケサークルが立ち上がる予定です。誰もが二

を開催していますので、点字の資料や手話通訳要約筆記などの情報保障が必要です。昨年までは、聴覚障害者情報センターで仕事をしていたので、日常会話程度の手話なら出来るようになりました。来年は、点字図書館の点訳ボランティア養成講座に参加し点字を覚えたいと思っています。

―プライベートは―

両親と息子の四人暮らしです。十年前、母が脳梗塞を発症し、要介護状態になった為、介護と育児を両立できる西部会館のデイサービスセンターで契約職員として働き始めました。母は二時期寝たきりでしたが、今は歩行器で歩くまで回復しています。右麻痺は残っていますが炊事や掃除もできます。自分で出来るようになりたい家族の為に何か役に立ちたいという気持ちで強く、父や私から「美味しいね」と言われると更にやる気が出て元気になっています。息子は中一になり、思春期の入口です。父は高齢になり趣味の釣りもしなくなり、現在は私と一緒に行く週二回のリハビリ後に食べる昼食の焼うどんが唯一の楽しみになっているようです。私自身は、毎日の夜のビールで浄化され、ストレスはその日のうちに解消し溜まることはありません。親の介護、子育て中の私にはとても理解のある働きやすい職場に感謝しています。

聞き手 森山 幸恵

広告



山内税理士不動産鑑定士事務所 株式会社 北九州会計事務所

税理士 山内 英樹

〒802-0014 北九州市小倉北区砂津1-3-18
TEL 093-541-0035
FAX 093-541-0038

障害あるある川柳

皆様のご応募お待ちしております! お問い合わせはボラ協へ

平成30年度 みんなの研修会 どなたでも参加できます

☆日 時

平成31年1月20日(日)
14:00~16:00

☆会 場

北九州市立
東部障害者福祉会館 研修室6A・B

☆内 容

1部/グループワーク
2部/平成31年度事業について
話そう!

☆参加費

100円(お菓子代、飲み物含む)

☆参加締切

1月11日(金)

☆お問い合わせ(ボラ協)

北九州市障害福祉ボランティア協会
☎093-882-6770
FAX 093-882-6771
e-mail
XLZ02133@nifty.ne.jp

みんな
来てね!!



渋滞の

車列を横目にして 優越感

※道路が渋滞していたので、車いすで目的地に向か
つたら自動車よりも早く到着しました。一馬力も
ないのに...

博物館

目は見えねども 楽しめる

※最近の博物館では手で触れられる展示物もあ
り、視覚に障害がある人も鑑賞できるものもあ
ります。

・見習える

介護手法も 家でする



・知り合った

友と施設へ 行く日課

広告

Refame
TOWN COLLEGE
Center

リフォームで、より快適な住まい作りを提案します。

株式会社タウン・リフォームセンター

あなたの町の大工やさん

見積り 0円!!
お気軽にご相談下さい



0120-969-498

TEL 093-541-1860

24時間 FAX 受付 土・日・祭日も営業中 FAX 093-541-2086

〒802-0018 北九州市小倉北区中津口1-6-4-1F

ご協力・ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

赤崎 雅仁 佐野 哉夫

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

牛島実基子 大道由梨恵 田中 千晶 田村 武子

富士岐工産株式会社 生き方のデザイン研究所

株式会社スーパード栄 八幡西区社会福祉協議会

ユニーク体操プラナ レディース門司教室

○バザー品

永井 久子 日隈 あけみ

香典返しご寄付

天野多津子様よりご主人様のご逝去に際し、香典返しの一部をご寄付いただきました。故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

☆収集品・ご協力をお願い☆

この時期は年末に向けて、皆さまも年賀状の準備をされていることと思います。

万が一、書き損じなど出ましたら、ボラ協で活用させていただきます。

手数料を払えば、郵便局でハガキや切手と交換することができます。ボラ協では通信費削減のため収集しています。

※今年も一年間ボラ協を支えてくださり、ありがとうございます。

よいお年をお迎えください。



協会カレンダー

12月

1日(土) 障団連・障害者週間 街頭啓発キャンペーン

2日(日) 第21回北九州市手話フェスティバル(後援事業)

第29回全国ふうせんバレーボール大会(後援事業)

福祉のあり方研究会

6日(木) 芳賀文化財団 北九州ボランティア顕彰委員会表彰式(竹田)

14日(金) ボランティア市民活動センター正副委員長会議(竹田)

15日(土) 会報第220号発行

19日(水) 中間支援組織連絡会(竹田)

福祉のまちづくりネットワークプロジェクト拡大定例会

20日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

21日(金) ボランティア市民活動センター運営委員会(竹田)

28日(金) 仕事納め

1月

4日(金) 仕事始め

9日(水) 常任委員会

16日(水) 福祉のまちづくりネットワークプロジェクト定例会

20日(日) みんなの研修会

24日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

30日(水) 第16回障害者パソコンサポーター養成講座説明会

2月

6日(水) 第16回障害者パソコンサポーター養成講座開講式(全10回)

15日(金) 会報第221号発行

24日(日) 視覚障害者の外出支援ボランティア体験講座

(東部障害者福祉会館・「ゆう・あい」共催事業)